平成28年度　　香川県中学校教育研究会学校保健部会研究大会

　　　　　　　　　　　　　　　　　事前研究の手引き

香川県中学校教育研究大会学校保健研究部会

１　研究主題

未来をより健康に生きるための保健教育の創造

～生徒の気づきを促し、確かな健康観と実践力を育てるための指導の工夫～

２　研究主題設定の理由

近年、社会状況や生活様式等の急激な変化に伴い、生活習慣の乱れ・メンタルヘルス・アレルギー疾患・感染症・性の問題行動・薬物乱用など子どもたちの健康課題は複雑かつ多様化している。また、豊かな生活、情報社会の中で、現代の子どもたちは、さまざまな条件の中から正しい答えや自分に合ったものを考え選び抜く力が求められている。

学校において生徒たちが将来にわたり自分自身で健康な生活を心がけようとする意識を高めていくためには、中学校教育において必要な知識を習得させるだけでなく、それを生活につなげていくための何らかの支援や工夫が必要であると考えた。

また、学校保健部会は保健体育科教員だけでなくさまざまな教科の教員や養護教諭が在籍している。学校の校医区活動全体を通じて行うとされている健康教育においてそれぞれの立場からどのように健康教育活動を連携させていくべきかに着目し研究を深めていきたいと考えた。

　(仮説1)

　　　生徒自身が自分の健康課題に気づき「はっ」とする機会を意図的に取り入れることにより、その後の学びを自分のこととして捉え、実生活で実践しようとする健康意識を高めることができるのではないか。

(仮説2)

　　　それぞれの教科の特質を生かした授業を特別活動や学校行事などにつなげる機会の連携や教科担任と担任、教諭と養護教諭、専門職員や専門機関などの人との連携を意識することで、生徒にとって健康意識の継続化が図れるのではないか。

(仮説3)

　　それぞれの教科の特質を生かした取組や、学校に応じた取組を本部会において情報の共有化を図ることにより、教員自身の資質向上となり、より充実した健康教育の推進を図れるのではないか。

３　研究の組織と内容

　（１）研究の内容

本研究では、学校保健活動において次の3項目に重点をおき研究を進めることにした。

1. 生徒の気づきを促すための指導の工夫

・生徒が健康課題を自分のこととして捉え考えるための指導

1. 健康観と実践力を育てるための指導の工夫

・健康の価値を認識し、様々な情報（知識・技能）の中から、自分に合った内容を選び実践しようとする意欲をもたせるための指導

1. 学校全体の健康教育活動として「つなぐ」ための指導の工夫

　　・保健学習や保健指導だけでなく、特別活動や総合的な学習の時間なども含めた学校教育全体において、それぞれの特質に応じて相互に関連させる指導

　　・学校内外の連携体制づくりや、教職員のコーディネート力向上のための取組

（２）研究の組織

教育活動の様々な場面を通して、自己の健康に対する認識を深め生活に生かそうとする態度を育てることから、次の３つのグループに分かれ各校の実態を基に計画的に実践を重ねた。

1. 生活習慣グループ

　　　　生徒の気づきを促す授業、生徒の確かな健康観と実践力を育てるための生徒主体の保健委員会活動、校内はもとより家庭や地域を「つなぐ」ことを意識したがん教育の３つの実践を行った。

②健康安全グループ

生徒の実態や地域の状況に合わせて、「保健・医療機関の有効利用」について５校で共同開発を行い、授業づくりを完成させた。ヘルスプロモーションの考えが定着するよう、生徒の実態や生活に密着した授業を目指した。

　　③心の健康グループ

　　　　自尊感情に着目したアンケートを３年間実施することで、生徒の変化や傾向、実態などを調査した。3年目は生徒が学校生活の中でも重点を置く部活動の引退や中学校生活しめくくりの受験など、心が揺れ動く機会があり、心に大きく影響すると考えアンケートを３回実施することにした。このアンケート結果を参考に「自分自身を大切に思う心」や「他者への思いやりの心」「夢を持ち、夢に向かって努力する心」などの自尊感情を高める保健学習を各学年の発達段階に応じて研究することにした。

４　公開授業

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 研究授業の学年・組 | 題　　　材 | 授　業　の　視　点 |
| １年３組  生活習慣グループ | 学級活動  「バランスのよい弁当作り」 | 自分に合った食事量や栄養バランスのとれた食事内容をわかりやすくするために「３・１・２弁当箱法」を用いる。栄養教諭とのTTを取り入れることで、専門性を生かした指導を工夫する。 |
| ３年６組  心の健康グループ | 保健体育  「感染症と予防」 | 16年前より保健師・助産師と連携して「いのちの学習」を行っている。教科書での学習と保健師・助産師から学ぶ香川県・三木町との現状とをつなぐことにより、正しい知識を身につけさせるようにする。 |

５　今後の課題

生徒の気づきを促す工夫では、生徒が将来をよりよく生きるための健康教育としては、さらに将来を意識した活動が必要だといえる。生徒自身が自分の未来像を描くとき、未来像の土台に健康があることを意識させるためには、時間軸を意識させ、常に健康課題が伴走していることに気づかせることが大切である。

　　生徒の健康観と実践力を育てる指導の工夫では、今後、生徒や教員がよりよく影響し合って学校全体の健康を保持増進していく取組につなげることが課題である。生徒と教員の間はもちろん、生徒同士、教員同士が健康観を高め合っていくような継続的な取組が必要である。

　　つなぐための指導の工夫では、学校全体で健康教育活動に携わるためには、教員自身が健康の価値を優先順位の上位にもってこられるような健康観の確立が必要である。多くの教育課題がある中で、生徒が未来を健康に生きるためには、教員間のつながりはもちろん、生徒間、外部機関との連携も重要である。そのためには保健主事、養護教諭、保護者、学校医が連携して学校全体の健康教育活動を活性化するために働きかけを続けることが大切である。